

# 産地技術による生活空間演出のためのデザイン開発

浅川光臣・桜井孝美・森本恵一郎・中村修・平田俊也

Household commodities devised by the technique of  
companies in Yamanashi pref.

Mitsuomi ASAKAWA, Takayoshi SAKURAI, Keiichiroh MORIMOTO  
Osamu NAKAMURA and Toshiya HIRATA

## 要 約

地場産業と市場のニーズを結びつけた製品開発を図るため、地場産業の持っている技術と材料によりダイニングをテーマに、ニット応用製品としてロールスクリーン、ランプシェード、クッションを、貴石類応用製品として万能箸置、コースター、キャンドルスタンドを、木工製品としてダイニングテーブル、盆、銘々盆をそれぞれ開発試作した。

### 1 はじめに

人々の生活が高度化し、需要の個性化は著しい。この市場の変化は、小回りのきく小規模企業にとって好都合である。そこで、地場産業の持っている技術と材料を使って市場の需要を捉えた製品開発例を示し業界の参考に供するため、食事や喫茶の場を楽しく彩る小道具類の開発を行った。

### 2 ニット応用製品

織物、布帛の繊維製品は、従来から衣料品以外の住空間分野等へ多く用いられてきた。同じ繊維製品であるニットについては、衣料品のアンダーウェアから始まりカジュアルウェア、スポーツウェア、最近ではフォーマルウェアにまでおよび、衣料品のすべてに用いられている。しかし布帛と比較すると住空間分野への用いられ方は非常に少ない。このことは機能面や物性面等からくるのだろうが、ここでは感性に重点を置いてニットを取り上げ、インテリア用品の素材としての適性を検討した。用途検討を行った結果、カーテン、ランプシェード、クッションの3種類を試作検討した。カーテン、ランプシェードはニットの風合いの特徴の一つである厚ぼったさ、ウールっぽさを廃し、

薄手感、軽量感が出るよう編地の設計をした。糸は、ニット用素材としては細めの150デニールとし、綿糸や麻糸等セルロース系の糸と比較して耐日光性、耐燃性に優れたアクリル糸を使った。編地は細かなファインゲージ(20ゲージ使い)の2色ジャガードにした。色は若々しく明るいイメージにするため、鮮明ではっきりした黄色、赤色を選んだ。ジャガード柄はダイニング向けにフルーツをモチーフにしてレモン柄(写真1)、さくらんぼ柄(写真2)、りんご柄(写真3)にした。クッションはソフト感を出すため200デニールのポリエステルウーリ糸の3本合わせを使い12ゲージのNC横編機を用いた3色ジャガード柄とし、ジャガードの柄出し部分にウールを使った。柄はぶどう、さくらんぼ、バナナ、文字をモチーフにした。

#### 2-1 ロールスクリーン

素材としてカーテン生地を製作したが、製品化にあたり光や視線を遮る本来の機能より室内の区切り、インテリアの雰囲気づくりに重点を置いてロールスクリーンを製作した。赤色でさくらんぼ柄(写真4)とりんご柄を、黄色でレモン柄を各1点試作した。既成のロール機構を備えた部品に

装着した。寸法は巾850mm、長さ最大1600mmである。引き下げたときの両側の縮みこみを懸念したが支障はなかった。ニット特有の軟らかな風合いが優しく、さわやかな雰囲気醸し、素材として適材であると判断できた。

### 2-2 ランプシェード

製作上二つの方法を試みた。一つは多用されている方法でスチールロッドに装着した。赤色でさくらんぼ柄、黄色でレモン柄の2点を試作した(写真5)。布を使った既成品とは一味ちがうニットの軟らかい風合いが出た。もう一つは速乾型のポリウレタン樹脂をスプレーガンで吹き付けた後、エアブローで目を抜き、硬い板状の材料として使

用した。試作品は骨を使わず円筒型に成型した。赤色でりんご柄1点を試作した(写真5)。樹脂加工することによりランプシェード以外にも使用できるとの所感を得たが、独得のニット感が希薄となった。部分的に樹脂を含浸させニットの風合いを活かせば、一層興味ある材料となりえよう。

### 2-3 クッション

柄のモチーフごとに各一点を試作した。モチーフに合わせ赤・黄色の他、白・黒・紫・緑色を部分的に使い、又ウール糸を一部に編みこんで立体感を出す工夫をした。意図どおり柄と色の組み合わせによる面白さが表現でき、使わないときにはオブジェにもなる(写真6)。



写真1 レモン柄

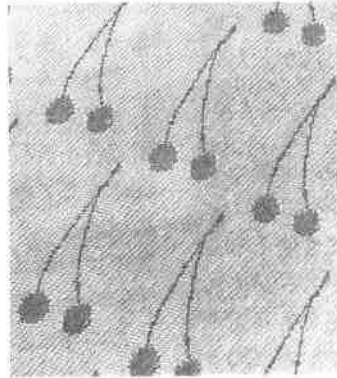


写真2 さくらんぼ柄



写真3 りんご柄

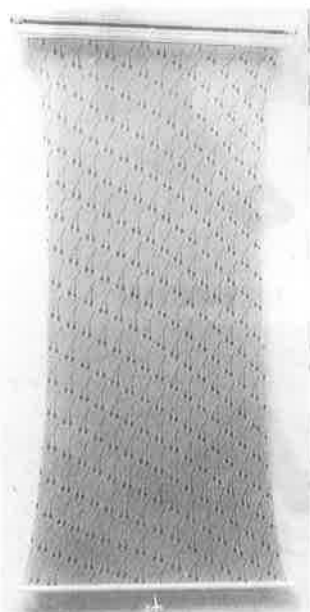


写真4 ロールスクリーン

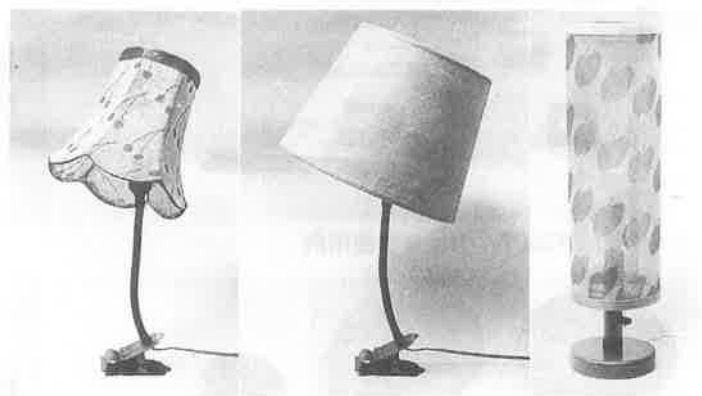


写真5 ランプシェード

試作品をみた範囲では、ニット製品は衣料品の素材以外にもインテリア用品の素材として使えるとの所感を得た。

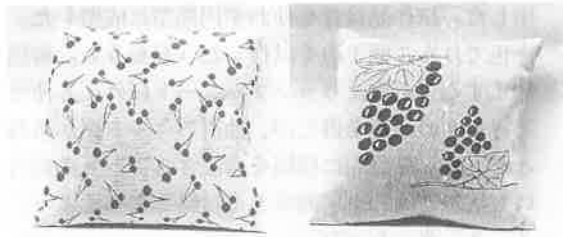


写真6 クッション

### 3. 貴石類を用いたテーブルウェア

貴石、半貴石類は大半が装身具類や装飾品の材料として使われている。日常用品に使われている他の材料に置き換えることにより、ノベルティ商品開発の可能性を追求した。貴石類は天然のものだけがも一つとして同じ文様、色の物が無いという魅力があり、それぞれが強い個性をもっている。この魅力ある素材を身近な製品に活かしたいと考えた。

#### 3-1 万能箸置

機能複合による面白さを狙い、従来品の箸置のイメージとは全く違うナプキンリング、エッグスタンド、スプーン・フォーク置きとしても使える工夫をした。試作品はトラメ石、オニキス、ジャスパー、ソーダライト、茶金石の5種類を各6個ずつ製作した。寸法は45mm角、厚さ12mmで中央に30φの孔をあけた。表裏の区別なく使える(写真7)。

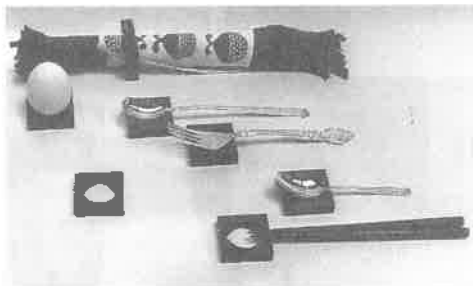


写真7 万能箸置使用例

セットとして使うので木製の収納器2種類を製作した。一つは本立て状、他は輪投げの芯棒状である(写真8)。すぐ市場に出しても良い仕上がりととなった。

#### 3-2 コースター

試作品は自然石の美しい縞模様を活かしたいと考え、天然めのもので製作した。1個の石から厚さ3mmで5枚取りにして自然感を強調した。コップ等を置く部分はサンドブラスト加工で凹面にし、研磨をしないでざらざらのままにし、凹面の形状を丸形、鳥、魚の3種類とした。使わない時は卓上の洒落たオブジェになる(写真9)。底面に厚さ2mmのコルクを貼り、他のものを傷つけぬ配慮をした。万能箸置と同様に完成度の高い仕上がりととなった。

#### 3-3 キャンドルスタンド

室内のムードづくり、演出効果を上げるうえでキャンドルは欠かせない。素材としては、拳大の川原石を貴石類の加工技術でキャンドルスタンドに仕立ててみた(写真10)。素材の単純さ、加工の単純さ、そっけなさに自然の香りが漂い素材の入手に問題はあるものの、市場受けする製品に仕上がったと考えている。

貴石類による開発製品は、木とも布ともよく調和し、テーブルウェアの材料として十分使えるとの確信を得た。

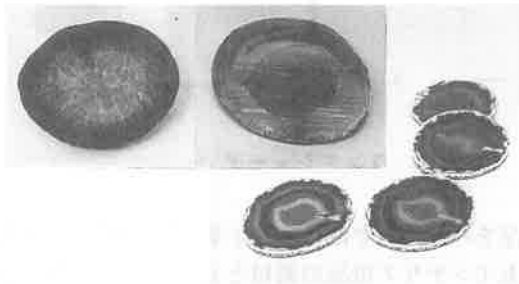


写真9 コースター



写真8 万能箸置収納器

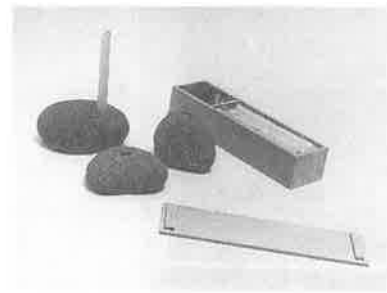


写真10 キャンドルスタンド

#### 4 木製品

木材は日常生活の中で最も一般的な材料として使われ、市場にはたくさんの製品がある。興味あるテーマは多々あるが、ここでは団欒の中心に置かれ、本テーマの中で開発した小物の舞台となるダイニングテーブルと加飾技術による付加価値付与の可能性を検討した盆、銘々盆を開発試作した。

##### 4-1 ダイニングテーブル

親しい友人、近所の人など家族全員が気兼ね無くつきあえる人との接客の中心に置いて、また、ホームパーティの中心に置いてムードを盛り上げられるテーブルの開発をめざした。天然木のもつ暖かさと木の存在感を強調するため集成材を用い、脚部の扱い(写真12)と造形を工夫し、塗装は自然感を出すため塗膜の強いポリウレタン樹脂塗料で艶消しの生地仕上げとした。また、ダイニング(=食事の場)でもリビング(=寛ぎと団欒の場)でも使えるようノックダウン構造にし、脚を外せば床上でも使えるようにした。寸法は巾1350mm、奥行750mm、高さ680mmである。試作品の仕上がり

状況を見ると、形態的には脚部の造形処理に新鮮感があり意図どおりの仕上がりとなったが、機能的には改善の余地があるので今後検討していく。

##### 4-2 盆・銘々盆

食事の場ではテリトリーができる。和式では銘々膳等、洋式ではランチョンマット等によるが、盆はその役目を果たす。大小対とし、食事や喫茶の場で使い方を工夫すれば、いろいろな組み合わせのセットができる。加飾の方法はサンドブラスト加工とスクリーン印刷である。試作品は(写真13、14)カラマツ材の単板を積層して用い、器を乗せる部分は水溜まりの形、それに四季の代表的な花(菖蒲、朝顔、桔梗、山茶花)を図柄としてあしらひ、薄緑色でスクリーン印刷した。図柄を強調するため、図柄の周囲にわずかの余白を残してサンドブラスト加工をした。寸法は盆が420mm×280mm、厚さ18mmで銘々盆が280mm×200mm、厚さ12mmである。試作品の仕上がり状況はほぼ意図どおりであったが、作業の手順、煩雑さの割に加飾の効果が不十分で再検討が必要である。



写真11 ダイニングテーブル



写真12 ダイニングテーブル脚取付部の納まり



写真13 銘々盆(大:菖蒲)

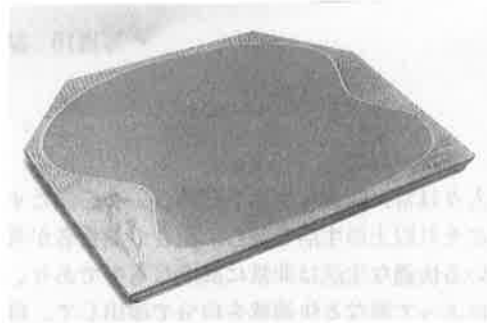


写真14 銘々盆(小:桔梗)

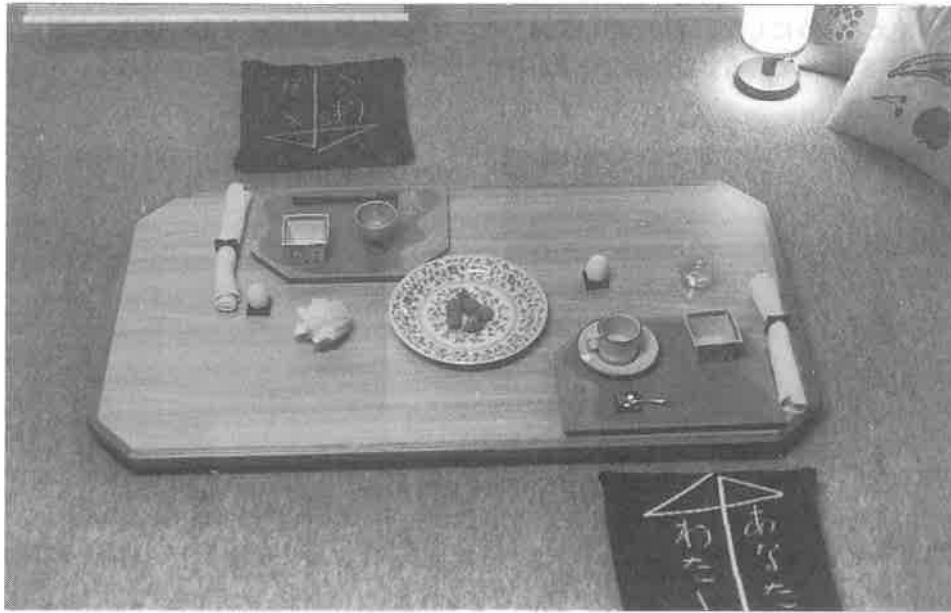


写真15 試作品をセットした例

## 5 おわりに

人々は常に快適な生活を望み、一つを満たすと更にそれ以上の生活を望む。現在の消費者が考えている快適な生活は非常に高度なものであり、個人によって異なる快適感を自分で演出して、自分の生活の場面に得ようとしている。これらの人々

には多彩で洒落た小道具が必要であり、そこに市場と製品開発のヒントがある。我々が開発を試みた製品群は、完成度はまちまちとはいえノベルティ商品となる要素がたくさんあると考えている。更に改良、検討を重ね業界に普及していく。